

手術を受ける外国人患者に使用するプレパレーションの改善への取り組み

キーワード 外国人 手術 プレパレーション

川口真由美 (手術室)

I. はじめに

近年の国際化により、アジアのゲートウェイである福岡県に来日する外国人の増加に伴い、外国人の患者が増えている。A病院には主に帝王切開を行う外国人が入院することが多い。異国・異文化の慣れない環境での入院・手術は、言葉の壁もあり、イメージを掴むことができず、日本人が手術を受ける場合よりもさらに不安やストレスを受けると予測される。外国人患者に関する先行文献において、外国人の手術の介入に関する研究はほとんどない。

A病院では約10年前より、帝王切開を受ける外国人患者に対し、紙芝居形式のプレパレーションを用いて、手術前日に入院した患者に術前訪問を行ってきた。しかし、手術のイメージがつかず、不安が増強する事例を経験することもあった。現在のプレパレーションは絵と英単語で表記しており、手術室の雰囲気や麻酔体位の現実感が伝わりにくい部分があった。

人の情報は視覚から得られることが多い。そのため絵だけではなく、写真化することでよりリアル感を持てると考える。そこで、これまで利用してきたプレパレーションに外国人の意見を取り入れて改善することを考えた。

II. 研究目的

私達が改善したプレパレーションを使用し、さらに外国人の意見を取り入れて改善することで、①手術の具体的イメージがつく、②手術室スタッフが少しでも均一なレベルで術前オリエンテーションが行えることを目的とした。

III. 研究方法

1. 研究デザイン

質的看護研究

2. 対象

予定の帝王切開手術を受ける外国人(2人)
英語が話せる患者が望ましいが、状況により英語と現地語が話せる家族を通訳の役割として含める

3. データの収集方法

手術室スタッフの意見を取り入れた写真中心のプレパレーションを作成する。

外来、または病棟にて手術予定の患者にプレパレーションを用いて術前オリエンテーションを行う。

手術後、術後訪問を行い、研究者が今回の研究用に作成したインタビューガイドを用いた面接をし、インタビューガイドへ記録を残す。

4. データの分析方法

プレパレーションへの反応の分析

5. 期間

平成29年9月～12月

6. 倫理的配慮

本研究は、研究参加者に対する人権擁護のため、研究対象施設における倫理審査委員会を通じて承認を得た。

研究説明書・同意書は英語表記の物を作成した。

7. 用語の定義

プレパレーション:ある特定の目的や予定されている出来事のために、不安や恐怖を最小限にし、準備していくプロセスである。

IV. 結果

対象者2名とも、母国語は英語ではなかったが、英語でのコミュニケーションは問題なく行えた。(インタビューガイド・結果は参考資料①②)

V. 考察

研究のプロセスと結果を踏まえ、考察は【スタッフの反応】【プレパレーションを用いた術前訪問の状況】【インタビューから得られたもの】カテゴリーに分け考察した。

【スタッフの反応】

研究開始前の準備のプレパレーション作成段階で、スタッフに意見を求めたところ、英語表記のプレパレーションに日本語表記を付けたほうが説明しやすいという要望があり、改善した。実際使用したスタッフからは、術後もしばらく麻酔の効果で足が動かないこともあったので、プレパレーション内に追記してほしいと要望があった。その一方、想定外の質問に答えることができない恐れもある。今回は麻酔覚醒後の下肢の違和感であったが、今後、プレパレーションを使用する中で生じてくる問題や質問を収集し、追記するべき点を考慮していく。また、以前使っていた紙芝居仕様のもものでは硬膜外麻酔の体位が伝わりにくく、体位取りが難しかったが、今回写真に変更したことで、手術体位のイメージはついたと患者の言葉から予測される。両者とも自信をもって「できた」と明確に答えた。しかし、実際は、恐怖心があることや細かいニュアンスが伝わらないせいか、患者からの「できた」という反応に反して、スタッフや麻酔科からは以前と体位の取り方が変わらない印象を受け、麻酔体位を取ることに對し、大きな変化が得られた実感はなかった。今後麻酔科と協働し、プレパレーション内の写真の検討や物品を使用してより効果的な体位が取れるように改善していく。

【プレパレーションを用いた術前訪問の状況】

今回の対象となった二人は英語でのコミュニケーションは問題ないため、今回作成した英語表記のプレパレーションは英語でのコミュニケーションができる対象に今後も活用できると考える。しかし、例えば、現地語のみのやり取りしかできないといったコミュニケーションの問題がある対象を考えるとすべてを今回作成のプレパレーションで補うことは難しく、何らかのサインを決めたほうがよいと二人からも答えを得たため、今後追加・検討していく。

【インタビューから得られたもの】

インタビューを行った患者は、これまでプレパレーションを受けたことがないため、比較出来るものがないが、プレパレーションに對し、悪い印象や低い評価ではなかった。写真でのプレパレーションは、かえって恐怖心を招く恐れ

もあると考えたが、二人からは写真でよかったという答えであった。

今回の対象者のうち1例は外来で夫とともに術前訪問をし、もう1例は入院後病棟で本人のみに術前訪問を行った。インタビューをする中で病棟で本人のみに術前訪問を行った患者からの要望として、病棟より外来でプレパレーションを使いたいと意見があった。外来で夫とともに術前訪問を行った患者は、外来で夫とともに話を聞くことでわからないことや不安を夫と相談したり、代弁する姿もあった。このことから、患者本人が一人でプレパレーションを受けるよりは、夫や家族とやり取りをすることで不安の表出や質問内容を考えたりすることができるかと予測する。

今回取り組んだプレパレーションは主に小児科領域で使用されている。処置や検査に対する準備のためだけでなく、プレパレーションを行い、恐怖心や疑問点を表出することで、相手の気持ちに共感する、問題点を引き出すなど、相手の気持ちを引き出す可能性を持つアプローチの一つとも言われている。看護師にとって、患者が日本人であっても外国人であっても患者に寄り添える手術看護を提供したい気持ちは変わらない。これまで同様、言葉が通じなくても、ボディタッチやボディランゲージを行う中で、プレパレーションを1つのコミュニケーションツールとして活用することで、より患者に寄り添えると考えられる。

VI. 結論

1. 写真入りのプレパレーションを利用することで手術のイメージが付き、理解や協力につながった。
2. スタッフの意見だけでなく、患者からプレパレーションの意見を聞くことで、より患者の理解につながるプレパレーションとなった。
3. 英語に慣れていないスタッフでも、均一した術前オリエンテーションにつながり、手術室のみでなく病棟、外来看護師との共有ツールとして活用できる。

VII. 本研究の限界と今後の課題

本研究の限界として、対象患者が少なかった。また、英語でのコミュニケーションが図れる研究者が中心となり取り組んだことでバイアスがかかった恐れがある。

今後の課題として、症例数を増やし、手術室スタッフが少しでも均一なレベルで術前オリエンテーションが行えるように改善していく

必要がある。

現在、日曜日入院、月曜日手術が増えてきているため、限られた時間での手術前オリエンテーションを求められることもある。そのため、外来や病棟との情報交換が必要不可欠となる。患者の要望として、外来で術前訪問を行って欲しいということもあった。外来での術前訪問は有効であり、本年度始まった術前外来の拡大も含め検討する必要がある。

今回は英語がわかる患者を中心にしたプレパレーションを作成したが、英語・日本語が通じない患者も多く入院してくるため、その患者への対応も考えていく事も課題といえる。

Ⅷ. おわりに

術前訪問は手術看護において重要な部分を占める。

外国人という特別な対応ではなく、日々の看護の延長線上として、言葉の壁、異文化への柔軟な対応能力をみにつけ、スタッフ間で均一な術前訪問が行い、また、このプレパレーションを用いることで、以前よりスムーズに手術前オリエンテーションができると期待する。

また、今回の取り組みが患者にとって、異国で手術を受けるにあたり、少しでも不安やストレスの軽減につながることを期待したい。

Ⅸ. 参考文献

1. 水野真木子:コミュニティー通訳入門;大阪教育図書
2. 川内規会:Z県在住外国人の医療現場における言語コミュニケーション上の問題;日本コミュニケーション学会九州支部, vol. 11, 2013
3. 野中千春:在日外国人患者と看護師との関係構築プロセスに関する研究, Journal of International Health, vol. 25. No. 1, 2010
4. 棚橋忍:医療現場ですぐに役立つ外国人患者対応マニュアル, メジカルビュー, 2017

参考資料②結果

インタビューガイド	A氏	B氏
1. 外国で手術を受けたことがありますか	ない	ない
2. 帝王切開は初めてですか	2回目	初めて
3. これまでに手術前にパンフレットや冊子などを用いて、手術の一連の流れの説明を受けたことがありますか	ない	ない
4. プレパレーションはわかりやすかったですか	わからない(比較するものがない)	わかりやすい
5. プレパレーションで手術の流れのイメージが付きましたか	ついた	ついた
6. 手術体位はとれましたか	とれた	とれた
7. 手術中に気分不良やめまいなどの症状を伝えるプレパレーションの写真を活用しましたか	ない(今回は必要なかった)	ある
8. 写真の他に症状を伝える際にサインを決めたほうがいいですか	決めたほうがいい	決めたほうがいい
9. プレパレーションの順番はどうですか	よい	よい
10. わかりにくい言葉や写真はありましたか	ない	ない
11. このプレパレーションの写真に追加したほうがいいものがありますか	ない	ない
12. 実際と説明に違いはなかったですか	ない	ない
その他(インタビューの中で得られた話)	要望として、病棟より外来でプレパレーションを使用したたいと意見があった。	

参考資料①インタビューガイド

- 外国で手術を受けたことがありますか?
A. ある B. ない C. 母国以外である
- 帝王切開手術は初めてですか?
A. 初めて B. 2回目 C. 2回目以上
- これまでに手術前にパンフレットや冊子などを用いて、手術の一連の流れの説明を受けたことがありますか?
A. ある B. ない C. 覚えていない
- プレパレーションはわかりやすかったですか?
A. わかりやすい B. わかりにくい C. わからない
- プレパレーションで手術の流れがイメージがつかまりましたか?
A. ついた B. ついてない C. わからない
- 手術体位がとれましたか?
A. とれた B. とれなかった C. わからない
- 手術中に気分不良やめまいなどの症状を伝えるプレパレーションの写真を活用しましたか?
A. ある(理由) B. ない(理由)
C. わからない
- 写真の他に症状を伝える際にサインを決めたほうがいいですか?
A. 決めたほうがいい B. 決まなくてよい C. わからない
- プレパレーションの説明の順番はどうですか?
A. よい B. 悪い C. わからない
- わかりにくい言葉や写真はありましたか?
A. ない B. ある C. わからない
- このプレパレーションの写真に追加したほうがいいものがありますか?
A. ない B. ある(内容) C. わからない
- 実際と説明にちがいはなかったですか?
A. ない B. ある(内容)
C. わからない